

「東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要

これまでの経緯

- 出生数の減少や若者流出の進行など、東三河地域の将来見通しは厳しいものがあり、他方で、AIなど革新的なデジタル技術の社会実装が急速に進んでおり、地方行政も住民サービスの維持・向上を図るためにデジタル化への一層の対応が求められています。
- 広域連合としても、東三河8市町村が一体となって共通の地域課題に取り組むことがますます重要になっているとの考え方から、第2期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間終了に合わせ、東三河の人口の現状分析を踏まえた第3期「東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定め、持続可能な東三河の地域づくりに資する施策を広域的かつ計画的に展開してまいります。

計画期間

令和7年度から令和11年度（2025年度から2029年度）までの5か年とします。

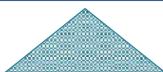
目指すべき地域の将来像

- 今後の人口減少、少子化・高齢化の進行により、地域における担い手の確保、公共サービスの維持等の課題が顕在化することが懸念されます。こうした中、地域住民に最も身近な市町村を広域連携とデジタルの力によりつなぎ合わせ、その魅力と活力を最大限発揮することで、東三河に住む全ての人が、将来に希望を持ち、住み続けたいと感じられる地域を目指す必要があると考えます。
- そこで、広域連合の目指すべき地域の将来像を次のとおり定め、その実現に向けて東三河8市町村（構成市町村）とともに戦略的に取り組むこととします。

目指すべき地域の将来像

持続可能で住みよい東三河

地域に人の流れを創り出すことで、東三河の新たな魅力と活力を創造するとともに、「東三河はひとつ」を合言葉に8市町村が手を携え、広域連携とデジタル技術の活用によるシナジー効果を發揮し、将来にわたり輝き続ける地域づくりを進めます。



3つの基本目標と具体的な施策

基本目標1.人の流れづくり

数値目標

- 東三河の観光入込客数⇒5年後に2,400万人

- ◆施策1-1 東三河住民の交流拡大
- ◆施策1-2 東三河の魅力発信

KPI（重要業績評価指標）

- 公共施設の相互利用⇒5年後に40%
- エンゲージメント・フォロワー数⇒5年後に4,400人

基本目標2.若者の生業づくり

数値目標

- 若者の割合⇒5年後に14.72%

- ◆施策2-1 東三河就業の理解促進
- ◆施策2-2 チャレンジの機会提供

KPI（重要業績評価指標）

- 事業に参加した学生等の数⇒5年間で300人
- ビジネスプランコンテストの応募件数⇒5年間で750件

基本目標3.セーフティネットづくり

数値目標

- 行政事務のデジタル化⇒5年後に8業務

- ◆施策3-1 窓口業務等のデジタル化
- ◆施策3-2 介護人材の確保

KPI（重要業績評価指標）

- ICT等を活用した窓口課題の解決⇒5年後に4事例
- 直接雇用者数⇒5年間で100人